

# 共に創る

「地域との共生」から「共創」へ  
共に創る施設を目指して

## 施設の沿革

平成17年3月

当地への刑務所建設決定

平成18年10月

島根あさひ大林組・ALSOKグループ落札

平成19年6月

起工式

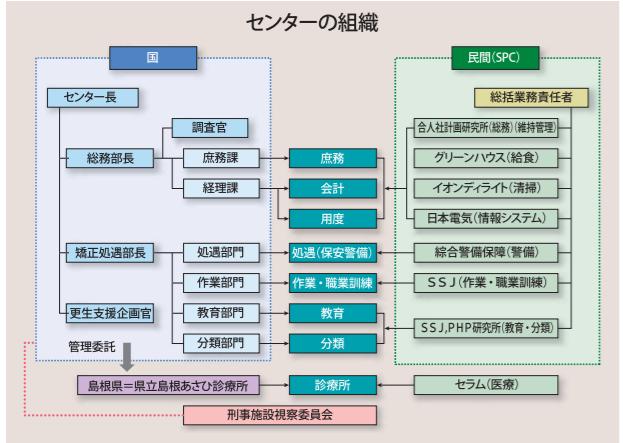
平成20年10月

運営開始

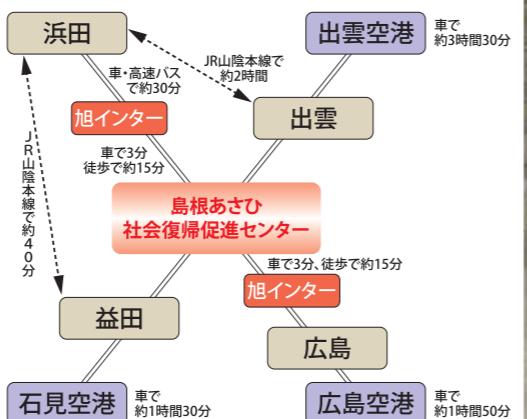


### ■刑事施設エリア

庁舎、管理棟、二つの運動場を囲む9棟の収容棟と体育館、職業訓練棟、サービスエネルギー棟、バラ・トマト栽培用ハウス、ホースプログラム用の馬場などがあります。



### 当センターまでのアクセス



### 島根あさひ社会復帰促進センター

島根県浜田市旭町丸原 380 番 15 TEL: 0855-45-8171 (代表)  
URL: <http://www.shimaneasahi-rpc.go.jp/>



地域と共に創る“社会復帰支援コミュニティ”  
—島根あさひモデルの実現に向けて



島根あさひ社会復帰促進センター



### 地域交流エリア

### ■地域交流エリア

「社会復帰支援コミュニティ」の象徴となる「街」として開発。職員宿舎、武道場のほかに、ビジターセンター、認定こども園、盲導犬訓練センターなどがあります。

# 施設・生活

## 社会復帰に向けた毎日の生活

### 施設概要

敷地総面積 ..... 約325,000m<sup>2</sup>  
建物延べ床面積 ..... 地域交流エリア: 16,304m<sup>2</sup>  
刑事施設エリア: 98,557m<sup>2</sup>  
収容対象者 ..... 犯罪傾向が進んでいない男子受刑者等2,000名  
なお、身体障害や精神・知的障害を有する受刑者も一部収容し、これらの者に対し特別なケアを実施  
職員数 ..... 国: 約200名 民間: 約350名

### 生活の中心・多目的ホール

受刑者は、各ユニットに配置された2層吹抜の開放的な多目的ホールで、食事・各種教育プログラム・余暇時間の談話・読書・e-ラーニングなど、様々な日々の活動を行います。



### “独歩方式”的導入

受刑者の衣服にはICタグを装着し、これにより中央監視室で位置情報を把握することが可能となっています。

面会、診療等の際には、原則として職員は同行せず、受刑者が独歩で移動します。これによって受刑者の自律性、自主性、責任感を醸成します。



### 人材再生

再び罪を犯すことなく、自他を傷つけない生き方を

### 欧米で実績のある教育プログラムを積極的に活用

欧米において再犯率の低下が実証されている「認知行動療法」、「回復共同体」の手法に加え、「修復的司法」の考え方を盛り込み、受刑者の改善更生を促しています。

#### 回復(治療)共同体

(TC : Therapeutic Community)  
人間性をトータルに学習するとともに「コミュニティ(精神的な絆で結ばれた人間関係)」を施設内に構築し、社会の中で生ずる個人として責任を果たすための考え方や行動の仕方を施設内の生活を通して、互いに学びあう。

#### 認知行動療法

(CBT : Cognitive Behavioral Therapy)  
犯罪的な行動を取り返させる「思考」と「感情」を変化させるとともに、自分が犯罪を起こすに至る行動の「サイクル」を考えさせる。その上でそのサイクルから脱却するプランを考えさせ、そのプランを実行する力を身に付ける。



### 動物介在活動・園芸療法——新たな矯正教育への取組

受刑者と地域のボランティアによる盲導犬パピー育成プログラムや、ホースプログラムなどの動物介在活動を関係団体の協力の下、実施します。園芸療法活動としては、構内のビニールハウスでバラの水耕栽培を行っています。



### 求められる人材として再び社会に

浜田市内の農業団地「新開団地」で行う農作業や、デジタル映像編集、パソコン技能修得、理容師養成などの多様な職業訓練等にも取り組んでいます。



### 就労支援

就労支援として、全国の刑務所で初めてハローワークを介さずに職業を斡旋できる無料職業紹介事業を平成26年1月に厚生労働省から認可され、在所中に企業の面接を経て内定に至る取組をしています。

### 地域との共生・共創

#### 地域の豊かな資源に力を借りて

### 「地域の力」と「国の経験」と「民間ノウハウ」の融合

#### 地域の力

- ・豊かな自然と四季の恵み
- ・地場産業としての農業
- ・今に息づく歴史と伝統芸能
- ・地元企業による作業提供
- ・地元ボランティアの協力
- ・自治体の「熱い想い」

#### 刑事施設の運営

- ・充実した処遇の実現
- ・職業人材の育成
- ・就労支援活動
- ・食材、物品の地元購入
- ・風土、景観との調和
- ・地域への施設開放

### 文通プログラム

改善更生のためにできることはないかという地域の皆さんのが想いから始まった、受刑者と地域の皆さんとの間の文通プログラムを実施しています。

#### 石州瓦の活用



### 地域交流エリア——地域と共に創る施設の象徴として——

地域と共に創ることが「国民に理解され、支えられる刑務所」を実現する第一歩であると私たちは考えています。

「地域交流エリア」は職員宿舎、ビジターセンター、盲導犬訓練センター、認定こども園、武道場などがある一つの「街」として地域コミュニティ活動の中心となります。



### 民間ノウハウの活用

#### より効率的な運営を目指して

### PFI事業について

従来は国や地方自治体が行っていた、公共施設などの建設、維持管理、運営などにおいて民間の資金、ノウハウを活用することで、より効率的で質の高い公共サービスを提供するものです。

### 効率的かつ確実なサービスの提供

少ない人員で効率的かつ効果的に受刑者への食事の提供や購買業務を行うために新たな技術を駆使した機器を導入しています。



給食自動搬送システム  
(AGV: Automatic Guided Vehicle)  
一日3食6,000食の受刑者の食事をサービスエネルギー棟から各収容棟及び職業訓練棟食堂まで自動的に搬送します。

### IT技術を活用した警備システム

当センターでは最新鋭のセキュリティシステムを導入しています。こうしたシステムと「人間の目と判断力による警備」とが並んで、万全の警備を実施しています。



位置情報把握システム  
施設内にいるすべての人の位置情報を、衣服に装着したICタグを用いてリアルタイムに把握します。



統合ビューア  
位置情報把握システム、監視カメラ、電気錠の操作、稼動状況把握を一元管理し、少ない人員で効率的な監視業務を可能とします。

セーフビューア (Safe View)  
人体に無害なミリ波を利用して、短時間で所持品検査を行います。